

二年制保育者養成校における幼稚園実習期間の検討

— 実習園と学生へのアンケート調査より —

水引 貴子¹⁾ 馬場 千晶²⁾

¹⁾ 日本児童教育専門学校

²⁾ 昭和学院短期大学

Examining the Kindergarten Practice Period at a Two-year Childcare Training School

— From a Questionnaire Survey of Training Schools and Students —

Mizuhiki Takako¹⁾ Baba Chiaki²⁾

¹⁾ Japan Juvenile Education College

²⁾ Showagakuin Junior College

抄録：二年制保育者養成校の実習や実習指導の課題は多岐にわたる。筆者らは2022年に昭和学院短期大学の实習を担当し、他大学との比較検討や、実習時期の検討などを通してさらなる実習の充実を追究してきた。本稿では、2年課程での幼稚園教育実習期間が「1週間・3週間」または「2週間ずつ」のどちらの割り振りが適切であるのか、学生と実習園へのアンケート調査によって明らかにした。結果は「1週間・3週間」が、実習を経験済の2年生と、両期間を受け入れた経験がある実習園により僅差で支持された。また選択理由の自由記述をKJ法でコーディングした結果5項目に分かれ、2年生では学びの充実や余裕を持った実習準備を優先すると「1週間・3週間」を選択し、気力体力的な余裕を優先すると「2週間ずつ」を選択する傾向が見られた。そして、実習園の「1週間・3週間」を選択した理由がすべて積極的なものであったことは注目に値する。

キーワード：幼稚園教育実習、実習期間、保育者養成校、実習指導、アンケート調査

1. はじめに

本研究は、千葉県市川市に立地する保育者養成校である昭和学院短期大学の2年間の教育課程において、幼稚園教育実習（以下、教育実習）の実習期間の割り振りについて検討するものである。

昭和学院短期大学人間生活学科こども発達専攻（以下、こども発達専攻）は、2003年に保育士養成、2005年に幼稚園教諭養成を目的として設置認可され、毎年大半の学生が幼稚園教諭Ⅱ種免許状と保育士資格の両方の取得し、卒業している。筆者らは2022年に実習担当として両学年の幼稚園および保

育実習（保育所）への送り出しを行った。それをもとに、実習や実習指導の課題を洗い出して改善することで実習のさらなる充実を求めている。拙稿では、他大学の教育実習および実習指導のスケジュールを比較することで、1年次の教育実習までの事前指導の回数の不足を指摘し、加えて他科目との連携の必要性を訴えた（水引・馬場、2022）。

また、事前指導の回数の不足を改善するために、2023年度では教育実習時期をそれまでの1年次夏休み期間から後期の11月へと変更することを試みて学生および実習園へアンケート調査を行った。学

生へのアンケート結果によると、11月の実習が夏休み期間のそれよりも支持される傾向が見られた。その理由として、筆者らが想定していた事前指導の回数が増加が大きく関与していると思われたが、それよりも夏休みの充実や事前指導以外の学びの積み重ねが影響していることが明らかになった。また、実習時期の後倒しは学生のみならず教員にとっても事前指導や実習巡回において余裕が生まれたという効果も見られた（馬場・水引、2023）。

本稿では、こども発達専攻における教育実習期間において、現行の1年次に1週間、2年次に3週間という割り振りが適切であるのか、学生と実習園へのアンケートによって明らかにしようとするものである。

実習における期間の検討を行った先行研究は管見の限り見当たらない。幼稚園での実習ではないが、佐野らの研究（佐野・森本・浅野、2005）では、4週間の保育所実習の学習効果を学生アンケートから明らかにしている。

また、佐野らの勤務校ではその後、2週間ずつの保育所実習を導入したことから、保育所実習を1年次と2年次の2回にわたって2週間ずつと、1年次に連続4週間行った学生に対してアンケートを実施し、その学習効果を比較検討している。（佐野・森本・浅野・杉本、2008）その結果によると、1年次に気づいた課題を2年次で取り組めるという「今後の実習課題の発見」という理由から、学生は2週間ずつの実習を支持した。

本研究では、幼稚園での実習期間の比較であること、2週間ずつの実施と比較するのは4週間ではなく1週間3週間の実施であること、学生のみならず実習園へもアンケートを行っている点で上記の先行研究とは異なるものである。

2. 本学の実習スケジュールおよび目的

(1) 実習スケジュール

本専攻では、幼稚園教諭Ⅱ種免許状と保育士資格を取得するための実習が、卒業までの2年間で5回実施されている。1年次の11月に実施される教育実習（1週間）は、こども発達専攻での最初の実習に位置付けられている。その後、1年次の2月に10日間の保育所実習（保育実習Ⅰ）、2年次の6月に10

日間の施設実習（保育実習Ⅰ）、夏休みに2回目で3週間の教育実習、11月に10日間の保育所実習（保育実習Ⅱ）が行われている。

(2) 実習の目的

こども発達専攻では、幼稚園実習の正式な依頼を文書で実習園に行く際に、「実習に係るお願い」として実習概要も送付している。この実習概要では1年生用と2年生用があり、「これまでの学び」、「御指導いただきたい内容」が共通しており、2年生用のみさらに詳細な「実習内容のめやす」が加わる。

1年生用では、「これまでの学び」は以下のもの挙げている。

- ・ 5日間の参加実習
- ・ 「手遊び」「読み聞かせ」「ピアノ伴奏」の部分実習

すでに部分実習を学んでいるのは、前期に「保育基礎演習」という授業で併設園での部分実習を経験しているためである。ただし、部分実習の指導案については前期の授業内で指導していない。

これらを踏まえて「御指導いただきたい内容」は以下のようになっている。

- ・ 前半2日間を見学実習
- ・ 後半3日間を参加実習
- ・ 保育終了後の片づけや清掃、翌日の準備等に関わる仕事
- ・ 学生の実情に応じて、「手遊び」や「読み聞かせ」などの実習の機会

続いて、2年生用の実習概要における「これまでの学び」は以下の通りである。

ア 本学の併設幼稚園における参加実習、部分実習（1年次前期）

- ・ 登園時を中心とした幼児の姿や援助などについての観察および記録
- ・ 「手遊び」「読み聞かせ」「ピアノ伴奏」の部分実習

イ 幼稚園における実習（1年次11月）

表-1 幼稚園実習についてのアンケート内容

	質問項目	回答欄
①-A	〈実習期間について〉 全4週間の教育実習期間を1年次と2年次の2回に割り振る場合、適切だ と思う割り振り期間を以下の選択肢から選択して○をつけてください 。	1. 1年次1週間、2年次3週間 2. 1年次2週間、2年次2週間 3. その他
①-B	上記の理由を記入してください（任意）	自由記述

- ・学外幼稚園における1週間の実習
- ウ 保育所等における実習
- ・保育内容関係の授業における保育所での観察実習
- ・10日間の保育実習（1年次2月頃）
- ・児童福祉施設における10日間の実習（2年次6月頃）

これらを踏まえて、「御指導いただきたい内容」は以下の通りになっている。

- ・実習園および配属学級についての理解
- ・幼児の発達、幼稚園の生活、環境についての理解
- ・指導計画と援助についての理解
- ・保育者の役割や仕事についての理解と実践を通じた体験
- ・保護者との連携、地域における幼稚園の役割などについての理解 等

以上のように、2年生用は1年生用よりも幼稚園教諭の職務内容に踏み込んでおり、具体的な学びの内容になっている。

3. 研究方法

学生および実習園を対象に、望ましい実習期間の割り振りについて選択したうえで任意に選択理由を記述するアンケート調査を行った。その後、自由記述された選択理由をKJ法にてコーディングした。

(1) アンケート調査

こども発達専攻の1・2年生を対象とし、幼稚園実習についてのアンケートを実習後の2023年11月末に実施した。アンケート内容は、幼稚園実習の期

間を「1年次1週間、2年次3週間」もしくは「1年次2週間、2年次2週間」「その他」¹⁾を選択し、さらにその理由を記述するものである。同じ内容で実習園を対象にしたアンケート調査も実施した。主に千葉県北西部の幼稚園のうち、今年度こども発達専攻の1・2年生の幼稚園実習の受け入れ側となった千葉市、柏市、松戸市、船橋市、市川市、鎌ヶ谷市、印西市、四街道市などにある施設を対象としている。アンケート内容は表-1のとおりである。

(2) 倫理的配慮の有無

本研究は、昭和学院短期大学倫理委員会の承諾を得ている。また対象者には本研究の目的と方法を口頭と文書で説明した。調査への協力は自由意志に基づくものであること、協力に拒否しても不利益はないこと、データは匿名化した上で使用すること、得られたデータは本研究以外には使用せず、本研究終了後に破棄すること、アンケートの回答をもって本調査に同意したとすることを説明した。

(3) KJ法

はじめに両学年の幼稚園実習の割り振り期間の選択肢である「1週間・3週間」と「2週間ずつ」、「その他」への回答数を集計した。次に、選択理由の記述をコーディングする際にKJ法を用いた。テキストマイニングの手法も考えられたが、今回は自由記述の内容が少なく量的なデータが十分でないと判断し、KJ法のみを採用した。KJ法の分析手順は、筆者ら二人がそれぞれの意見をのり付き付箋に書き記し、それを貼り出した。それらを小グループから中グループに分け、各グループにカテゴリーとなるタイトルをつけていった。この方法により、さらに意見の「積極性」「消極性」といった傾向も明らかにされた。(図-1)



図-1 自由記述をKJ法で分類したもの

4. 結果

(1) アンケートの結果

1年生は総数56名中アンケートに答えたのは44名(78.5%)、2年生は総数64名中アンケートに答えたのは61名(95.3%)であった。

回答の傾向で述べると、1年生のアンケートにおいて、「1週間・3週間」が適切であると回答したものは11名(26%)であるのに対し「2週間ずつ」を選んだ回答は31名(73%)であった。

また2年生においては「1週間・3週間」が適切であるという回答は31名(50.8%)、「2週間ずつ」を選んだ回答は27名(44%)であった。

実習園は90園へ送付したうち、66園から回答が得られ回収率は73%であった。その回答の中で「1週間・3週間」は35園(52%)、「2週間ずつ」は28園(42%)であった。また「その他」のカテゴリーの中で、学生には見られなかった「どちらでも良い」という回答が2園(3%)あり、理由としては「他校の例にあるように2年次に4週間でも良い」「どの期間でも大学側に合わせる」といった意見があった。

(2) KJ法の結果

選択理由の自由記述には、様々な意見が挙がっていた。それらの意見を書き出し、KJ法を用いてコーディングを行った。それにより、学生と実習園の意見は「経験」、「学び」、「ストレス」²⁾、「責任実習」、「その他」の5つのカテゴリーに分類することができた。さらに、各カテゴリーに対して積極的、消極的と見られる意見に分類し、まとめた。

記述数について、1年生は、「1週間・3週間」に対して自由記述は9記述、「2週間ずつ」には20記述あった。一方、2年生は「1週間・3週間」に対して16記述、「2週間ずつ」には21記述あった。実習

園は、「1週間・3週間」に対して22記述、「2週間ずつ」には17記述であり、2年生と比較すると「1週間・3週間」に対しての自由記述の方がやや多く見られる。これらを表したものが表-2である。

以上、KJ法で導き出された結果を踏まえ、実習期間の割り振りについての考察を進めていく。

5. 考察

(1) 1年生

「2週間ずつ」を支持する意見が「1週間・3週間」を大幅に上回った。理由を見ると、「学び」に関する回答が少なく、「ストレス」に関する消極的意見が多く見られる点からも、初めての実習において学びについて考える余裕がなかったことがうかがえる。また、「2週間ずつ」を選択した学生は2年次の「ストレス」を軽減させることを優先し、「1週間・3週間」を選択した学生は1年次のそれを軽減させることを優先させたと考えられることから、負担を前倒しするか先送りするかという2通りの捉え方があることがわかった。ただし、「1週間・3週間」を選択した2年生の回答に「3週間は長い、その頃には慣れてる」とあるように、2年次の3週間の幼稚園実習までに各10日間の保育所実習と施設実習は経験済みのため、1年次の1週間の実習に生じやすい戸惑いや緊張した感覚がそのまま2年次の実習まで続く可能性は低い³⁾。

(2) 2年生

一方、2年生においては双方が拮抗し、「1週間・3週間」が若干上回った。1年生と異なる点は、「1週間・3週間」を選択した理由に「責任実習に余裕をもって取り組める」という積極的意見が約半数を占めたことである。これは責任実習を経験した2年

表-2 自由記述のコーディング（1・2年生、実習園）

	1年生アンケート 幼稚園実習期間について			2年生アンケート 幼稚園実習期間について			実習園アンケート 幼稚園実習期間について					
	1週間・3週間	回答数	2週間・2週間	回答数	1週間・3週間	回答数	2週間・2週間	回答数	1週間・3週間	回答数	2週間・2週間	回答数
経験	2年生は余裕があるから 1年次は1週間で慣れない 知識がないから2週間行くのは厳しい 最初の実習は余裕がない	1 3 3 1	お遊戯会の練習だけで終わってしまったため 1週間だと短い	1 1	1週間の実習がどのようなかわかるから 次の保育実習が楽に思える 幼稚園3週間やった後の保育実習2週間は充実する	1 1 2					1年生に1週間は短すぎる・慣れた頃に終わってしまう 2週間あれば3年次を体験できる 1年の経験実習も2週間の方がじっくりできる 1年次に基本的な体験をじっくりしてほしい	6 1 2 1
学び			1年次に長く実習したら来年のことを考える余裕ができる。	1			1週間だと生活の流れを知るだけで終わってしまう 3週間だと新しい気づきが多くなる	3 1	1年生にとっては学びのきっかけだから1週間はちょうど良い まずは社会性を身につける 1年生はまだ未熟・1週間で十分	4 2		
ストレス			3週間はしんどい 2週間だと同じ期間だから気持ち少し楽になる 2年次が楽になる 1年次はまだ慣れていないため	10 1 2 1	3週間は長い慣れていない 初めての実習は1週間の方が気持ち的に頑張れる	2 1	3週間はしんどい 3週間だと慣れてきたら始めた	16 1			3週間は体力的にしんどい 1週間の後3週間だと流れが掴めず疲れてしまう 3週間は辛い	1 1 2
責任実習	2年次の責任実習をしっかりやりたい	1	3週間で責任実習までやるのは辛い	1	3週あった方が責任の時に子どもの様子を詳しく知れる。 責任実習は3週あった方がやりやすい 2週間だと指導案を書く時間がない 責任実習の準備や日報作成に余裕が持て、多くのことを吸収できた	2 2 2 4			2年次に責任実習がやりやすい 責任実習までの動きや流れを掴みやすい・子どもの様子を知ることができる	9 3	責任もやっつて3週間は長い	1
その他			バイトができず金なくなる 2年次の夏休みなくなる ちょうどいい	1 1 1	夏休みが少し長くなる	1	3週間だと風邪で延長した際により長くなって大変	1	2年生の3週間は前職も視野に入れて実習ができる 園行事と重なるため	2 2	バランスが取れていて予定が組やすい 1週間だと配属クラスに悩む	1 1
総計		9		21		18		22		22		17

生にしか記述できない意見である。また、「2週間ずつ」を選択した理由の中にも、「体調さえよければ3週間の方が子ども理解や責任実習の準備ができる」と回答した学生が2名いたため、責任実習に取り組むうえでは3週間という時間的な余裕が必要であるといえる。

その一方で、「2週間ずつ」を選択した学生の半数以上は「ストレス」に関する理由を挙げていた。「1週間・3週間」を選択した中でも「1年生で2週間取り組むのは心身が持たない」という意見もあり、1年生の結果と同様に、心身の負担を前倒しするか先送りするかという考え方の違いが見られた。

以上のことから、学びの充実や余裕を持った実習準備を優先するもしくは負担を先送りしたいと考えるならば「1週間・3週間」を、負担を前倒しさせたいならば「2週間ずつ」を選択する傾向にあることが明らかになった。

(3) 実習園

2年生と同様の結果がみられた。特徴的であるのは、「1週間・3週間」がすべて積極的理由により選択されていることである。学生は「1週間・3週間」しか経験していないため、ポジティブに捉えた学生は「1週間・3週間」を、ネガティブに捉えた学生は未経験の「2週間ずつ」を消去法的に選択するのは自然なことである。しかし、実習園においては「2週間ずつ」を実施している養成校の実習生も受け入れているであろうにもかかわらず、「1週間・3週間」への選択理由がすべて積極的なものであったことは注目に値する。特に「責任実習に余裕をもって取り組める」という理由が半数以上を占めた。また、就職を視野に入れてある程度長期的に幼稚園で過ごすことで、就職先として見極める材料となるという理由も見られた。

一方で、「2週間ずつ」の回答は消極的な理由によ

り選択しているものが半数以上あり、さらにその中で「1週間では短い」、「3週間では長い」というものが半数以上を占めた。「1年次に1週間では短い」という回答は、裏返せば「1年次にもしっかり指導を行いたい」という実習園の学びに対する熱意の現れであり、1年次から実習での学びの充実を期待しているということである。他方で、1年次に1週間の望む理由には、「1年生では未熟である」「学ぶきっかけ程度でよい」という意見もある。これは、1年次では学びの充実を学校に求めているともいえる。よって、1年次の学びの重点を学校と実習園のどちらに置くか、という点で実習園の中でも意見の相違が見られる。

6. さいごに

本稿では二年制の保育者養成校における教育課程において、幼稚園実習期間の適切な割り振りについて検討した。

こども発達専攻での保育実習との順序も考慮すると、最初の実習に位置付けられる1年次の教育実習は、実習そのものを知り実習に慣れるという目的において、心身の負担感の少ない1週間が妥当であると考えられる。その後、10日間ずつの保育所実習と施設実習を経ることにより、3週間の教育実習への耐性もつくだろう。2年次の教育実習では園の流れや担当する子どもを理解したうえで部分実習を実施し、責任実習へ向けての担任との打ち合わせや指導案の作成に取り組むとするならば、3週間は必要である。よって、1年次に1週間、2年次に3週間という割り振りは、こども発達専攻の事情とあわせると理にかなっている。その一方で、「2週間ずつ」を支持した実習園も半数近くあることから、実習依頼の際に実習概要において、こども発達専攻の実習期間の割り振りの意図と各実習の学びの目的を明記することで理解を得たい。

また、選択理由の自由記述で「しんどい」や「辛い」という語句が頻出したが、何がそうであるのか不明瞭な回答が多かったため、今回は精神的もしくは身体的に負担となる「ストレス」と解釈しカテゴリー化した。しかし、佐野らの研究(2008)によると、実習の苦楽と健康管理の相関はないとしていることから、実際には身体的なしんどさは含まれてい

ないのかもしれない。今後は実習の辛さの内訳も注目したい。

そして、井上らの研究(2019)も鑑みて、「2週間ずつ」を支持した1年生のアンケート結果は、それまでの実習の経験および実習中のストレスコーピングのスキルの不足が影響しているとも考えられる。よって、保育所実習なども経験した後に再び同様のアンケートに回答した場合、内容が変化することもありうる。こちらはまた別の機会に譲りたい。また、2年生の回答に見られた実習中の学びの充実や実習準備の余裕と、心身の余裕の優先度には何が影響しているのか明らかにすることは、今後の指導内容の傾向にも影響を与えるので、今後の課題としたい。

7. 謝辞

本稿を執筆するにあたって、ご協力くださった学生の皆さんおよび実習園の保育者の皆さま、そして2023年度から昭和学院短期大学で「幼稚園実習指導」をご担当の片桐恵子准教授に心から感謝を申し上げます。

注

- 1) これ以降「1年次1週間、2年次3週間」は「1週間・3週間」、「1年次2週間、2年次2週間」は「2週間ずつ」と表記する。
- 2) 林(2012)によれば、学生が取り組む実習ストレスの構成要素として、「保育技術の不足」にピアノを弾くことが「しんどい」、「多忙感と身体疲労」として体力的に「しんどい」という学生の意見を挙げている。今回筆者らのアンケート回答にも「しんどい」という回答が多々見受けられたため、「ストレス」というカテゴリー化を行った。
- 3) 井上・町田(2019)によると、幼稚園実習を行った3年時の学生らと、保育所実習を行った4年時の学生らにストレスコーピングについて調査を行ったところ、4年時の学生らは3年時の学生らよりも「情動」焦点型コーピングに加えて「問題」焦点型コーピングスキルも身に付け、柔軟に多様なコーピングスキルが使えるようになったとしている。よって、実習を経験する回数が増えるほどストレスへの耐性がつくと考えられる。

また、佐野ら(2008)によれば、実習を2週間ずつ2回に分けた学生の苦楽感の調査において、2回目の2回生時の実習のほうが1回生時の実習の経験を踏まえ、より楽しいものへと変化する傾向を示している。

参考文献

井上清子・町井登美子(2019)「幼稚園実習中のストレスと

- ストレスコーピングについて』『教育学部紀要 文教大学教育学部』第52集別集、pp. 25-33
- 金子智栄子・金子功一・佐藤広崇（2014）「保育実習生のストレス対処に関する研究 — 4年制養成課程の学生における実習中の困難対処について —」『文京学院大学人間学部研究紀要』Vol.15、pp. 47-57
- 佐野友恵・森本恵美子・浅野俊道（2005）「本学の保育所実習の実施に関する実態調査（I） — 連続して4週間の保育所実習の学習効果に関する学生の意識調査 —」『大阪国際大学紀要 国際研究論叢』第19巻第1号、pp. 141-161
- 佐野友恵・森本恵美子・浅野俊道・杉本佳隆（2008）「本学の保育所実習の実施に関する第2次調査 — 保育所実習に係る実施期間の類型とその学習効果に関する学生の意識調査」『大阪国際大学紀要 国際研究論叢』第21巻第2号、pp. 41-69
- 馬場千晶・水引貴子（2024）「本学こども発達専攻における幼稚園実習の時期に関する研究 — アンケート調査を通して —」『昭和学院短期大学紀要』第61号、pp. 1-8
- 林富公子（2012）「初めての保育所実習におけるストレスについての考察」『園田学園女子大学論文集』第46号、pp. 241-253
- 水引貴子・馬場千晶（2023）「本学こども発達専攻における実習指導の課題 — 幼稚園教育実習の時期について —」『昭和学院短期大学紀要』第60号、pp. 43-53

受付日：2024年3月10日

受理日：2024年5月21日

